

ZANDEN Model 120 の展開(41)
ーベートーヴェン全集を聴く(41)ー

1. 始めに

前報(40)に引き続き、ベートーヴェン全集を集中的に聴いていきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langevin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、今回から、LINN LP-12 の再構成(23)と LINN LP-12 の再構成(24)で報告したとおり、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。音源としては、ベートーヴェンのピアノ 3 重奏曲を聴いていきます。これらは、Y 氏から頂戴したものです。



ドイツグラモフォン MG9555

ピアノ 3 重奏曲第 1 番変ホ長調

ピアノ 3 重奏曲第 2 番ト長調
ウイルヘルム・ケンプ(ピアノ)
ヘンリク・シュリング(ヴァイオリン)
ピエール・フルニエ(チェロ)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、前報(1)と同じく、TELDEC の逆相、第 4 時定数は Mid で聴いていきます。

上記のように今回から軸受けをカルーセルに交換しており、その効果は LINN LP-12 の再構成(24)で報告したとおり、ベートーヴェン全集シリーズのドイツグラモフォン MG9551 の三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）でも確認済です。

ピアノ 3 重奏曲第 1 番は、1 楽章のおだやかな表情からスタートして終楽章の快活な盛り上がりまで、カルーセルの効果によりケンプの軽快なタッチとシュリングとフルニエの滑らかな弦の織りなす様がよく出ています。

ピアノ 3 重奏曲第 2 番は、これも明るく快活な曲で、ケンプのピアノはよく響き、シュリングとフルニエの滑らかな弦と交絡していき、生き生きとした演奏です。

4. まとめ

今回も、アナログアキュライザーを TruPhase の入力側と出力側にセットしたことに加えて、カルーセルの導入により、上記の 2 曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上